

## つばさっ子ボランティア

中条小学校の強みは、地域やボランティアの皆様、保護者の皆様から子どもたちの教育を支えていただいていることだと感じています。朝や帰りの見守りを通して安心して学校に通えること、温かい気持ちになれる学校掲示などを整えていただけること、楽しい本を読み聞かせてもらえること、学習のサポートをしていただけることなど、全てが子どもたちの教育の礎となっています。頃より様々な学習活動や行事などにご協力をいただき、本当にありがとうございます。今年度もよろしくお祈いします。

(ボランティア担当 横山 卓也)

今年度もよろしくお祈いします！！



サツマイモの苗植えの様子  
(学習ボランティア)

## 運動会結団式の様子



運動会のスローガン発表



団長同士の握手

## 6月の主な行事予定

2日(月)	朝の読み聞かせ(4~6学年) 後援会地域代表者会	16日(月)	◇1~3年5限後下校 ◇4~6年6限後下校
3日(火)	1年生校外学習(北公園) 2年生校外学習(町探検) 5年生校外学習(中条農産)	17日(火)	読み聞かせ(1~3年) 全校5限
5日(木)	クラブ①	20日(金)	あいさつの日(中学校区合同) 全校5限
6日(金)	諸校費引落日	23日(月)	訪問給食(1年2組) 読み聞かせ(4~6年)
9日(月)	全校5限 1~3年5限後下校 4~6年6限後下校 読み聞かせ(1~3年) つばさっ子体験隊Ⅰ	24日(火)	つばさっ子体験隊Ⅲ① (6年生)~佐渡1日目~
10日(火)	(午前:4年1組 午後:4年2組) あいさつの日(生活委員会)	25日(水)	つばさっ子体験隊Ⅲ② (6年生)~佐渡2日目~ 1年生学年行事 (フラッグフットボール、給食試食会)
11日(水)	委員会③	26日(木)	1、2、6年5限後下校
12日(木)	中条つばさ会	27日(金)	全校朝会
13日(金)	ばにす週間(~18日(水)まで) 全校5限 訪問給食(1年1組)	30日(月)	読み聞かせ(1~3年)



## 力をあわせること

校長 松原 利弘

5月24日に運動会が行われました。

力いっぱい走る、競技に全力を出す、懸命に応援する、係の仕事に汗を流すなど、子どもたちがすばらしい姿を見せてくれ、とても感動しました。

保護者、地域の皆様からは、温かいご声援をたくさんいただきました。誠にありがとうございました。

今年もよい運動会となりました。

すばらしい姿は、それまでの準備や練習などの積み重ねが結実したものです。感動するものには、必ずそれに先立つ努力があるものです。



運動会の2週間前の5月9日に応援団の結団式がありました。このときにも、応援団リーダーは機敏に動き、全校児童は声や動きをそろえて、応援歌を歌いました。この結団式の中で、私は子どもたちに次のような話をしました。

「力をあわせる」という言葉があります。これは、「重いものを一緒に持つ」というだけの意味ではありません。今日のように声や動きを揃えることも「力をあわせる」ことだと思います。昨日、応援団の練習を見ていたら、一人の団員が隣にいる団員にアドバイスをしていました。すると、アドバイスを受けた団員は、それに頷き、アドバイスされたことを試していました。このような姿も「力をあわせる」姿だと思います。2週間すると運動会です。運動会本番でも、それまでの練習や準備でも、みなさんが「力をあわせる」姿を、たくさん見せてくれることを楽しみにしています。

古来、「和」の大切さを伝える言葉は、多く語り継がれています。

「天の時は地の利に如かず 地の利は人の和に如かず」

この言葉は「三遷橋」の「三遷」という言葉の由来となった孟子の言葉です。何よりも「人の和」が大切であると言っています。

これからの学校教育について議論している、文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会が「他者との対話・協働」を目指す姿の一つとして提言しています。この姿は、将来の社会の創り手として育成すべき大切な資質であると、私も考えています。これからの学校生活の中でも、子どもたちの「力をあわせる」姿を数多く見ることができるよう、見守り、教え、励ましていきたいです。



# 令和7年度 胎内市立中条小学校 グランドデザイン

**地域の参画**  
**地域との協働**  
 ◎地域とともに歩む学校づくり

**学校運営協議会**

地域コーディネーター  
 PTA 後援会  
 つばさっ子ボランティア  
 中条つばさ会

**<教育目標>**  
 かしこく(知) やさしく(徳) たくましく(体)

**<児童像>**  
 自分で考え、ともに行動する子

○学習指導要領  
 ○令和7年度 新潟県「学校教育の重点」  
 「児童生徒が主役の授業づくりの推進と確かな学力の育成」  
 「いじめをしない、許さない、命を大切にす意識の醸成」  
 ○胎内市教育の基本理念  
 「教育は人をつくり、地域をつくる 崇高な営み」

**自分の考えをもち、学び合う子**

**<育成する力>**  
**確かな学力(知)**  
 ◎問題解決力の育成と基礎基本の定着

**自他のよさに気付きかかわる子**

**<育成する力>**  
**共に行動する力(徳)**  
 ◎豊かな人間関係を築く態度と能力の育成

**運動や健康づくりに取り組む子**

**<育成する力>**  
**継続する力(体)**  
 ◎自分で決めたゴールまで粘り強く取り組む態度の育成

**<成果目標>**  
 ◎ ワークテスト(国語・算数)における各学級の平均点が全国平均点を上回る。

**<具体的な取組>**  
 1 対話のある場を意図的に設定する授業の日常化と効果的な板書の工夫  
 2 「まなチャレ教材」の実施や学年テスト等による基礎学力の定着とその状況の評価  
 4 学習規律の精選と定着  
 5 家庭学習の習慣化を図る家庭学習強調週間の実施と「家庭学習のススメ」の活用  
 6 地域素材を生かした総合的な学習の時間・生活科の実践と成果の表現や貢献

**<成果目標>**  
 ◎ 友達や先生、家族、地域の方等、進んであいさつできる子どもを全校の85%以上にする。

**<具体的な取組>**  
 1 進んであいさつをする実践的な活動を全校で実施(中条中学校区の連携等)  
 2 「胎内市あいさつの日」に、学年や委員会が中心となり、進めるあいさつ運動  
 3 「あいさつ合言葉」を活用した日常的な実践  
 4 よさを発揮できる学級活動、委員会活動の工夫と振り返りの位置づけ  
 5 人権教育、同和教育の計画的な授業実践

**<成果目標>**  
 ◎ 教育活動の前後で記録向上した子どもを80%以上にする。(20m シャトルラン)  
 ◎ メディアみんなの目標を守ることができる子どもを全校の80%以上にする。

**<具体的な取組>**  
 1 走能力の向上を目指すモデルプラン・運動例の作成と活用  
 2 これまで作成したモデルプラン・運動例の学年の実態に応じた活用  
 3 「早寝・早起き・朝ごはん」に基づく、生活リズムの改善を図る指導  
 4 「ばっちり にこにこ すっきりカード」による家庭と連携した生活マネジメント力の育成  
 5 「家庭での『機器』使用ルール6か条」の見直しとその活用

**特別支援教育の理念をすべての教育活動の基盤に**  
 「一人一人の実態に合った適切な学習環境を提供し、子どものもてる力を高める指導、支援を行う」  
 ・coを核に全校体制で：校内支援委員会 ・関係機関と密接な連携、協働 ・「個別の指導計画」「教育支援計画」の作成→実践・評価・改善

**【コミュニティスクール目指す子どもの姿】**

◎夢に向かっていろいろな体験ができる子  
 ・つばさっ子秋祭り  
 ・キャリアについて考える機会の提供

◎ふるさとを愛し、よりよく生き抜く子  
 ・総合的な学習の時間、生活科の学習  
 ・人や地域への貢献活動  
 ・子どもたちの自己有用感を高める活動

◎自分自身を見つめ、課題をとらえられる子  
 ・自分の考えをもつ、教育の場の設定  
 ・問題解決的な学習過程

## 保護者、地域の方々との連携・協働による学校教育

**【PTA】**

- 学習参観、学校行事参画
- 健やかな子どもの育成を目指したPTA活動
- つばさっ子秋祭りへの参画(指導者、活動補助)
- PTA広報「さんせん橋」の発行(年3回)

**【学校支援ボランティア】**

- 学習支援(校外学習引率、スキー授業補助、書き初め指導、ミシン指導等)
- すこやか(安全指導、あいさつ等)
- 図書館(読み聞かせ、読書環境の整備等)
- 環境整備(校内掲示・鯉のぼり・七夕飾り・門づくり等)
- つばさっ子秋祭りへの参画(出前教室の講師等)

**【学校運営協議会】**

- 学校評価計画に基づく確実な評価と意見、助言→改善
- 学校運営協議会での熟議→地域のよさを学校教育へ

**【後援会、中条つばさ会】**

- 地域の声を学校に、学校の取組を地域へ

↑  
 胎内市学校教育の重点  
 「地域とともに歩む学校づくり」

**【保護者との連携】**

- 「共に健やかな成長を目指す」という意識の共有
- 学校の情報を迅速に→学校メールの有効活用
- 各種活動を伝えるホームページやたより等の工夫

**【子ども園・保育園】**

- 交流活動と情報の共有
- かけ橋プログラムの試行

# みんなちがって、みんないい

## 特別支援学級

令和7年度の支援学級は、児童数57人、全9クラスでスタートしました。保護者の方と相談しながらお子さん一人一人に合わせた支援計画・指導計画を作成し、指導方法を工夫しながら学級経営を行っています。学習上または生活上の「苦手」を軽減させることをねらった自立活動や、「よかった」「できた」と実感しながら個々の進度に合わせて取り組めるように教科の学習や自立活動、生活単元学習に取り組んでいます。また、中条小学校の特別支援学級では、胎内市で導入された「ぱすの一と」を活用しています。小児発達に関わる医療や胎内市の福祉サービス等のネットワークと繋がることで、支援が必要なお子さんに必要な支援が届けられ、より確かな成長が促されるようになることを期待しています。

お子さんの健やかな成長にとって大切なのは、お子さんに合わせた学びの場を提供することです。「支援学級で学んでよかった」と実感してもらえるように、担任9名と介助員12名のスタッフで、力を合わせて取り組んでいきます。

(支援教室主任 埴田 陽子)

## ことばの教室

ことばの教室は、胎内市の全ての小学校の通常の学級に在籍する児童を対象とした言語障害通級指導教室です。次のような児童が対象となります。

- ・特定の音がうまく発音できなかったり、発音が不明瞭だったりするお子さん。
- ・話すときに、繰り返したり、音を伸ばしたり、なかなか声が出てこなかったりする吃音のお子さん。

ことばの教室での学習は、一対一で行い、児童の現在の状況やがんばっていることをしっかりと認め、褒めて指導を進めます。遊びも取り入れて、児童が意欲的に通級できるように工夫しています。うまく話せないので話さない、うまく読めないので勉強をやりたくないなど、心の問題や学習の問題にならないよう、早めの相談をお勧めします。ことばの面から精一杯サポートさせていただきます。

(ことばの教室担当 梅田 昌子)

## サポートルーム

サポートルームは、普段は自分の学級で学習しながら、週に数時間通う、通級指導教室です。教室で落ち着きがない、集中できない、不安になる、友達とうまくかかわれない、一生懸命学習しているのに学習が身につかない、など個別の支援を必要としているお子さんを指導の対象としています。

個々に目標を決め、「自立活動」と呼ばれる、対人関係やコミュニケーションスキルを高める訓練、「読む」「書く」「計算する」など学習を助ける指導を行っています。お子さんの実態に合わせて、個別指導、グループでの指導を行います。できたことを一つ一つ褒めながら、ゆったりとした気持ちで活動できるように工夫しています。対象は通常学級に在籍するお子さんです。心配なことがあればいつでもご相談ください。

(サポートルーム担当 皆川 真弥)